

SDGs未来都市 恩納村

恩納村が世界一サンゴにやさしい村を目指す「サンゴの村」を宣言して1年半が過ぎました。皆さんの周りでもいろいろな取り組みが進められてきているかと思います。そこで恩納村赤土協議会と農林水産課が行っている事業を紹介します。



海人青年部が赤土対策

SDGs未来都市にも認定されたいま、いよいよ海人が本格的に動き出しました。恩納村赤土協議会が協力を依頼し、観葉植物ほ場の赤土流出対策となるサトウキビ葉がらマルチング作業を恩納村漁協青年部の総勢16名（組合長を含む）が対策作業に参加しました。作業前には、海人青年部の方々全員に赤土対策について説明を行いました。



この対策は営農支援を重視することで自発的で持続的な赤土対策を実現させるための活動で、葉がらマルチングを施した畑は、確実に赤土が流れなくなり、さらに、雑草が減るため除草剤使用量も減り、保湿効果で植物の生育が良くなります。葉がらもキビ生産の副産物であり循環型農業に繋がっています。

ただ、一輪車で運搬して畑に敷き詰める作業は大変な重労働。そこがネックではあるが、今回はその重労働を海人青年部が行いました。

2年間の試験的な実施の成果より、県内初となる拠点産地に指定された観葉植物のほ場全体に広げていく計画です。

海と陸を繋げて村内全体での環境保全活動!!まさにSDGs未来都市だ!

自然環境調査

サンゴの村の事業の一つとして、「恩納村の誇る海山の自然環境調査」を実施しています。この調査では、海から干潟、川、陸にかけて、サンゴをはじめ生き物や植物、環境など現在の恩納村の自然環境を把握して、村の財産として今後の取り組みの基礎となる資料作りを行っています。次回から写真のような貴重なサンゴをはじめ、何百年も生きてると推定される大きなサンゴ、海草やマングローブの分布、絶滅が危惧される希少な藻類「クビレミドロ」など事業の展開などもあわせて紹介していきたいと思います。どうぞお楽しみに!

